

# “NIDS NEWS”



防衛研究所企画室編集(03-3713-5912)

..... 2011年2月の主な出来事.....

## 《 イギリス王立統合軍防衛研究所(RUSI)所長の来訪 》



2月4日、イギリス王立統合軍防衛研究所(RUSI)所長マイケル・クラーク氏が同国国防武官エドニー・アンディー海軍大佐とともに防研を訪問し、柘田所長を表敬しました。両所長は今後の交流のさらなる発展について意見交換を行いました。

今回、クラーク所長は外務省の招聘により訪日し、著名な有識者、安全保障に精通した国会議員、外

務・防衛各省の政務官、事務次官、局長等と意見交換を行いました。

## 《 第3回防衛戦略会議の開催 》



2月23日、平成22年度第3回防衛戦略会議が、グランドヒル市ヶ谷において開催されました。今年度は「北東アジアの戦略構造変化と日米同盟」を年度共通テーマとして実施してきました。今回の会議には渡邊昭夫議長(平和・安全保障研究所役員会副会長)をはじめとする委員17名の他、内局から10名、防衛研究所から柘田所長以

下10名が参加しました。

第3回は「核軍縮・不拡散」と題し、梅本哲也委員(静岡県立大学)に報告をいただき、参加者の間で議論が行われました。

### 〈 第13回日米テレビ会議の開催 〉



2月9日、防研と米国防大学国家戦略研究所(INSS)との間で日米テレビ会議が行われました。本会議は、我が国にとって戦略的に重要な影響を与える諸課題について、テレビ会議システムを用いて意見交換を実施し、政策提言の資とすることを目的としています。本会議は平成

15年度に開始され、今回で13回目となります。

今回は、米側からクリストファー・ヤン INSS 主任研究員が「人民解放軍の域外活動」、日本側から高橋杉雄防研研究部第2研究室主任研究官(兼)防衛政策課戦略企画室戦略環境分析班長が「防衛計画の大綱と日米関係」を議題とし発表を行いました。ヤン報告については、人民解放軍海軍の「近海防御」戦略と「域外活動」との関係等について増田雅之研究部第6研究室主任研究官がコメントし、高橋報告に対しては、プリシュタップ INSS 主任研究員が日米同盟の重視及び中国に対する日本の対応等についてコメントしました。それに引き続いて会議参加者が積極的な意見交換を行い、防研と INSS との間で相互に見解の共有が図られ、良好な関係が促進されました。

### 〈 戦争史研究会の開催 〉

2月8日~10日、15日~17日にかけて戦争史研究会が開催されました。今年度はそれぞれイスラエルからアザー・ガット氏(テルアビブ大学政治科学学部教授)、英国からウィリアム・フィルポット氏(ロンドン大学キングスカレッジ教授)を招聘し研究会を実施しました。

アザー・ガット教授には「文明の発展と戦争」、「民主主義とカウンター・インサージェンシー戦争の歴史」、「非民主主義大国の復活 - 歴史的視点から」の各題で、ウィリアム・フィルポット教授には「産業化時代の戦争の戦略」、「現代戦の戦争指導」、「産業化時代の戦争の実相」の各

題で研究会を実施いただきました。

### 《 第58期一般課程 》

2月は先月に引き続き、第2学期として5個講座及び10個セミナーを開講しました。13日からは第3学期がスタートし、「科学技術と安全保障」、「社会の安全と危機管理」、「近代日本の軍事史」及び「日本の防衛」の各講座を開講しました。また、セミナーとして「国際政治学概論」、「再考太平洋戦争への道」、「ユーラシアの戦略環境」、「紛争後の復興開発と少年兵問題」、「宇宙開発利用概論」、「大国政治における非対称な同盟：米韓同盟の機能と変化」、「戦争の本質と軍事力の諸相」、「組織と意思決定」、「平和活動の諸問題」、「危機管理に関するシナリオ研究」、「Comparative Study of Alliance Management」及び「現代中国の外交」の12個セミナーを開始しました。



さらに、14日から18日の間、西方(沖縄)現地研修を実施し、沖縄に所在する各部隊、機関等を訪問しました。部隊研修としては、陸上自衛隊第15旅団、海上自衛隊第5空群及び航空自衛隊南西航空混成団を研修し、航空自衛隊南西航空混成団司令の講話を受けたほか、CH-47及びP-3Cに搭乗し、上空から沖縄の地形、米軍施設等を確認することができました。機関等研修としては、自衛隊沖縄地方協力本部で沖縄の歴史や実状について本部長

講話を受けたほか、沖縄防衛局次長から防衛施設及び米軍施設について概要説明を受けるとともに、嘉数高台公園において普天間基地を眺望しながら説明を受け、普天間基地が抱える諸問題についても理解を深めることができました。また、防衛省以外の機関としては、海上保安庁第十一管区海上保安本部で巡視船を研修し概要説明を受けたほか、米海兵隊第3海兵遠征軍においては、日本における海兵隊基地の現状や第3海兵隊遠征軍の任務・役割等について説明を受けることができました。本研修では、現地における各種説明や体験型の研修を通じ、沖縄における防衛及び警備の現況や戦史を含む歴史、沖縄の地理的特性等についてより具体的に認識を深めることができました。

また、21日にはタイ国防大学研修団が来訪し、タイ側研修員及び一般課程研修員が3グループに分かれ、両国で提示したテーマを中心にフリーディスカッション形式による活発な意見交換を実施しました。



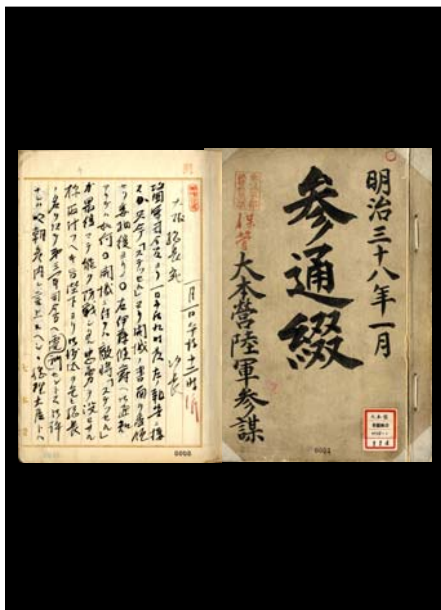
タイ国防大学研修団との意見交換

・・・「史料紹介コーナー」・・・

平成 22 年度は、日露戦争に参加した軍人の中から毎号一人を取り上げて、図書館史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

ながおか がいし  
《 長岡 外史 1858～1933年 》

- 日露戦争で山県有朋を支え、後にスキー導入にも尽力した髭の將軍 -



旅順開城に関する件

(登録番号：大本営 - 日露戦役 - M38 - 1 - 114)

長岡中将(旧陸士 2 期)は日露戦争当時、大本営陸軍部参謀次長として勤務しました。この史料は、明治 38 年 1 月 1 日、旅順要塞が開城した際、同中将(当時少将)が大磯の山県有朋参謀総長に送った報告(電報)です。『攻囲軍司令官ヨリ一日午後九時発左ノ報告ニ接ス、只今「ステッセル」ヨリ開城ノ書面ヲ受領セリ委細後ヨリ・・・開城ニ付テハ敵将「ステッセル」ガ最後マテ能ク防戦シタル忠勇ヲ没セサル様取計フヘキ旨陛下ヨリ御沙汰ヲ乞ヒ総長ノ名ヲ以テ第三軍司令官ニ訓電セントス・・・』とあり、旅順開城の報告とステッセル中将の処遇等について指導を仰いでいます。旅順開城直後の興奮が伝わる史料です。



スキー研究報告及意見

(登録番号：陸軍省 - 大日記乙輯 - M44 - 9 - 17)

日露戦争後、長岡中将は陸軍省軍務局長、第 13 師団長、第 16 師団長等を歴任しました。この史料は、明治 44 年 4 月、同中将が第 13 師団長の時に陸軍省へ提出した「スキー研究報告及意見」です。スキーの研究は、オーストリアから来日したフォン・レルヒ少佐を教官とし、隷下の歩兵第 58 連隊(高田)の大尉以下 12 名をもって同年 1 月初旬から 3 月中旬に掛けて行われました。同報告の冒頭には『登行ニ於テハ標(かんじき)ヨリ遙カニ速カナルノミナラズ彼ノ登行シ能ハサル傾斜ヲ攀登シ降行ノ際ハ滑走直下其疾キコト「ウォーターシュット」ノ如ク・・・』と記述されています。スキー導入期の貴重な史料です。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。  
防衛研究所企画室  
専用線：8-67-6522、6588 外線：03-3713-5912  
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp  
防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp